

[第24回]

MIKASA 株式会社ミカサ

代表取締役社長 佐伯 祐二 氏

すごいのは、バレーボールだけじゃない ～受け継いできた技術を磨きながら、 世界に向けて新しい価値を提供する～

株式会社ミカサは、100年以上の歴史を持つ老舗ゴム製品メーカーです。1917年に、広島ゴム株式会社としてスリッパやゴム草履などを製造する事業を始めたのを皮切りに、その後、登ゴム工業所、丸三ゴム工業株式会社と合併し、名称も、増田ゴム株式会社、明星ゴム工業株式会社と変更した後、2001年から株式会社ミカサとなっています。株式会社ミカサの製造するバレーボールは、1964年以降、ほとんど全ての国際大会において「公式試合球」として採用されており、2013年には、ビーチバレーボールの国際試合でも「ミカサボール」が採用され、更に2021年には、ミカサ製のサッカーボールが全国高校サッカー選手権大会の公式試合球にも選定されるなど、競技用ボールの世界では、「ミカサブランド」は確立しています。今回のインタビューでは、一般にはあまり知られていない株式会社ミカサの製造する工業用品の素晴らしさにも焦点を当てて、代表取締役社長の佐伯祐二様から、じっくりお話を伺いました。



元々違う事業を行ってきた 企業の集合体

— 御社は、スポーツボールと工業製品という、全く分野の異なる製品を製造されておられます。100年以上の御社の歴史の中で、いかにして、このような事業形態となったのでしょうか。

佐伯 当社の創業時には私は生まれていなかったのですが、聞いた話なのですが、創業者（増田増太郎氏及び寺田豊氏）は、ゴム関連の事業を行うため、ハワイまで行ってゴムの技術を習得し、ゴム事業を始めたとのこと。増田増太郎社長の立ち上げた広島ゴム株式会社は、スリッパの製造から始めて、ドッジボールの製造も手がけました。一方、寺田豊社長は、丸三ゴム工業株式会社を立ち上げ、新聞印刷用ラインのゴムロールなどの工業製品の製造を行いました。こうして違う分野の事業を行っていた両社が、1942年の政府の企業整備令により、合併させられました。

したがって、現在当社でボールと工業製品という全く違う分野の事業を実施しているのは、元々事業分野の違う企業の集合体だからです。なお、工業製品について言えば、広島市に隣接する呉市は、軍港としても造船所の集積地としても著名な場所です。現在も当社の主力商品となっている船用品は、戦前から製造していたと聞いています。

世界一のバレーボール ～ミカサボール～

—まず、「世界のミカサ」の技術力を代表するバレーボールの話から伺いたいのですが……。

佐伯 1960年に、私の祖父である仲田國市が社長に就任したのですが、「何を商うにしても、他社と比べて強みがないといけない」と考えたそうです。そこで目をつけたのが、当時新興スポーツだったバレーボールです。例えば、サッカーはメジャースポーツなので、新規参入は難しい。しかし、歴史の浅いバレーボールであれば、当社の技術力をもってすれば参入は可能ではないか、と考え、スイスにある「国際バレーボール連盟」(FIVB)に行き直接交渉したそうです。その結果、当社のバレーボールはFIVBの承認を受け、1964年以降、ほとんどの国際大会で「公式試合球」に選ばれています。ちなみに、FIVBの「公認球」に選ばれているバレーボールメーカーは当社以外にも存在しますが、「試合球」となると、1大会1社のボールしか選ばれないため、主要な国際大会の「試合球」に選ばれ続けることは、かなり大変なことです。

—1960年代から、グローバル化を見据えた事業プランを持っていたというのは、素晴らしいことですね。ところで、国際大会の「試合球」に選ばれることは、当然ビジネスにも、いい影響を与えますよね。

佐伯 もちろんです。スポーツ用品小売店に、当社のボールを置いてもらおうとした際、著名な海外スポーツブランド品との競合となり、当社のボール



公式試合球に選定された競技用ボールなどが並ぶショールーム

の性能を説明して「高品質のボールです」と言うだけでは、なかなか太刀打ちできません。そこで重要なのが、「国際大会の公式試合球」という「品質保証」です。当社のバレーボールについて言えば、1964年に「東洋の魔女」と呼ばれた女子バレーボールチームが金メダルを獲得したのに加え、バレーボールをテーマとした「アタックNo.1」「サインはV」といった漫画やアニメが大流行したことも追い風となり、多くの皆様に使っていただけることとなりました。

—ミカサのバレーボールを使えば安心、という信頼感が、国内外に醸成されているのでしょうか。ところで、現在はバレーボール以外に、様々な競技用ボールをおつくりになっていますね。

佐伯 はい。バスケットボール、ハンドボール、ドッジボールなど様々なボールを製造しています。その中でも、当社のビーチバレーボールについては、2013年にFIVB主催の国際大会における「公式試合球」に選ばれ、サッカーボールについては、2021年に全国高校サッカー選手権大会の公式試合球に選定されました。

皆様をご存じの海外のスポーツ用品ブランドは、自社生産ではなく協力企業につくらせています。その点、当社は自社でボールを製造しておりますので、ボールの細部に至るまで、今までの知識と経験を使って不断に改良することが可能となります。この点も、海外ブランド

と比べて当社のボールが優れているところだ、と自負しております。

地球の環境を確実に守る 工業製品

—ここで、御社のビジネスのもう一つの柱である工業製品の話に移りたいと思います。御社では、ゴムを使用した様々な工業製品を製造されておられますね。

佐伯 当社の工業製品としては、船舶推進装置及び産業用ポンプに使用される「水潤滑軸受（ベアリング）」、鉄鋼用・製紙・樹脂板などの製造ラインに使用される「ゴムロール」、船舶用「推進軸ゴム巻（ゴムライニング）」などがあります。いくつかピックアップして、具体的に当社の製品の優れた点をご説明していきたいと思います。

—是非、素人の私にもわかるように、ご説明ください。

佐伯 まずは、「船舶用水潤滑軸受」です。船舶には船底に長いシャフトがあり、船尾部分にあるスクリューに回転動力を伝達して推進力を得ています。シャフトの垂直方向にかかるラジアル荷重を受けるのがラジアル軸受です。当社が製造しているのは水潤滑システム用のラジアル軸受で、金属製の円筒状シェルの内面に用途に応じた摺動材を貼り付けています。摺動材はゴム製のもの（ゴム軸受）、ゴムに四フッ化エチレン樹脂（PTFE）を接着させたも

従来のゴム軸受けに比べ大幅な燃費向上と長期の耐用年数を実現する「FFベアリング」



の（FFベアリング）、耐熱限界が高いセラミックスを使ったもの（セラミック軸受）があります。

特に、FFベアリングについては、摺動材がゴムの上にPTFEを貼り付けた「機能的二層構造」となっており、従来型のゴム軸受けと比べ摩擦抵抗が1/8と極めて小さいためエネルギーロスが少なく、燃費を大幅に低減できる省エネ軸受です。耐摩耗性の観点から期待耐用年数を比較するとゴム軸受の2倍以上となり、船の平均寿命を超えるので就航後にFFベアリングを交換する必要はほぼありません。ただし、ゴムにPTFEを接着させるというのは、実験室レベルであればともかく、船舶用の水中軸受として大規模で長期間使おうと思うと極めて難しい技術であり、当社の誇れる技術の一つだと思っています。

また、当社はゴムの素材にも徹底的に拘り、海水中で高荷重と振動を受け続けるという過酷な環境下でも、数十年にわたり変質しないゴム素材を開発しました。更に、当社の軸受製品は潤滑剤として油ではなく水を使用しながら、油潤滑システムを凌駕する性能を持っており、近年問題視されている潤滑油漏洩による海洋汚染問題を解決するのに非常に有効な手段として貢献していると思います。

こうした性能が高く評価され、2008年には、当社のFFベアリングが文部科学省の南極観測船「しらせ」に採用されました。海象条件の過酷な氷海域を航行する「しらせ」には、当社の実績では最大となる内径810mmのFFベアリングが搭載され、今も順調に航行を続けています。2010年には建造当時世界最大であった4,100人の乗客を収容できる豪華客船「Norwegian Epic」、2021年には現在世界最大の6,850人を収容できる「MSC World Europa」でFFベアリング

が採用されました。1983年の上市以降、FFベアリングは国内外で700隻以上の船舶で採用されています。

— 当協会の会員には、鉄鋼メーカーや化学メーカーがいますので、製造ラインに使用されるゴムロールについても、ご説明いただけますか。

佐伯 ゴムロールは、鉄鋼用・製紙・樹脂板など様々な製造ラインで使用されますが、製造ラインごとに「酸に強い」「アルカリに強い」「摩耗に強い」「油に強い」といった性質のゴム素材でゴムロールをつくる必要があります。そうでなければ、ラインを頻繁に止めて、ゴムロールを取り換えなければなりません。例えば、当社のAWシリーズ（H-NBR）は、耐熱性だけでなく耐摩耗性、耐酸性にも優れたゴム素材として開発しました。特に、酸洗ラインのリンガーロールでは、取替周期が約2～4倍に延長できるなど絶大な効果を発揮しています。

まずは、 既存のビジネスの深堀

— お話を伺っていると、競技用ポール分野でも工業製品分野でも、順風満帆という印象を受けるのですが、今後御社のビジネスはどうあるべきと考えていますか。

佐伯 今のままで何もなくてもいい、とは全く思っておりません。ただし、まずは、現在の事業領域を更に深堀することが重要だと思っております。例えば、海外における売り上げを更に増やす、と



いったことも考えています。また、新規分野としては、再生可能エネルギー、特に洋上風力発電で新しいことができないか、と考えています。いずれにしても、現時点では模索中といったところです。当社の100年以上の遺産をすり減らすのではなく、少しでも増やしていくことが、社長としての私の使命だと考えています。

社員が生き生きと働く会社

— 事業内容の話から、社風や社員教育の話に移りたいと思います。御社のWEBには、社員の皆様の声が多く寄せられています。特に注目したのは、社員の皆様がオフタイムを生き生きと過ごしておられる姿が掲載されていることです。あまり他社のWEBでは見たことがなく、面白いな、と思いました。

佐伯 私自身がそのように作れ、と言ったわけではないのですが、人事担当の人たちがいろいろと考えて、作ってくれました。



佐伯 祐二（さえき ゆうじ）

1970年広島県広島市に生まれる。
1994年関西学院大学社会学部卒業 日本鋳鋼株式会社の常務を経て、2013年株式会社ミカサに入社。2014年12月代表取締役社長就任、現在に至る。

— 御社の人材教育で重視しているのは、どのようなことでしょうか。

佐伯 まず、新入社員に対しては、「当社に入社した以上、必ず海外勤務がある」と言っています。現在、日本には150人程度の社員がおりますが、タイのボール製造工場には500人以上の社員がいます。ボールの製造は手作業が中心となるため、どうしても人手が多くなります。他方、工業製品は広島でつくっております。新入社員には、全員タイの工場で研修を受けてもらっています。

ボール製造と工業用品製造は、やり方も異なりますし製造現場も離れていることから、社員の一体感を醸成することが重要だと考えています。そのため、両部門間での人事交流などを心がけています。

ソフトバレーボール 「ミカサカップ」

— 最後に、佐伯様ご自身のことをお伺いしたいと思います。佐伯様ご自身は、バレーボールをなさるのでしょうか。

佐伯 バレーボールは学校の授業でやりましたが、中学校はバスケットボール部、高校はハンドボール部で、大学では

バドミントンをやっていました。したがって、バレーボールを本格的にやった経験はないのですが、当社が協賛企業となっている「ソフトバレーボール ミカサカップ」というものがあり、それには参加しています。

— ソフトバレーボールというのは初めて聞いたのですが、どのようなものなのでしょうか。

佐伯 ソフトバレーボールは、通常のバレーボールより柔らかいボールを使って、4人制で行います。あまりスピードが出ないので、老若男女問わず楽しめるスポーツです。1990年には、日本バレーボール協会が主導して、日本ソフトバレーボール連盟といったものも立ち上がっています。ミカサカップは、中四国の方々を中心としてお集まりいただき、土曜日と日曜日にかけて開催するイベントです。試合だけでなく交流会もあり、和気あいあいと行っています。

— 余暇はどのようにお過ごしですか。

佐伯 インドアで言うと、推理小説を読んだり洋画を見たりするのが大好きです。アウトドアではゴルフの打ちっ放しによく行きますが、加えて自転車やバイク

といった二輪車に乗るのも好きです。この間も、「グラン・ツール・せとうち」という大会に参加して、瀬戸内しまなみ海道を100kmツーリングしてきました。

— 本日は、お忙しいところ、大変ありがとうございました。



インタビュー後記

株式会社ミカサの本社は、広島市の安佐北区にあります。山陽本線で、広島駅の隣の新白鳥駅まで行き、そこから新交通システム「アストラムライン」に乗って、約30分かけて14駅目の伴駅に着き、更に自動車で7～8分かかります。株式会社ミカサ様を訪問することがなければ、一生訪れることのなかった場所だろうな、と思ってしまうました。

株式会社ミカサの本社に着いてみると、玄関脇のショールームに飾られている競技用ボールや工業製品について、社長の佐伯様だけでなく、社員の方々が懇切丁寧にご説明になり、大変感激してしまいました。佐伯様は常にこやかにお話しになり、「こうした社長の下であれば、働きやすいだろうな」と感じました。

本当は、より詳細に記載したかったのですが、紙面の大きさの制約と私の力不足で、十分なお説明にはならなかったと思います。ご関心のある方は、是非株式会社ミカサの皆様から、直接お聞きください。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一



企業データ

社 名：株式会社ミカサ
 事業内容：ボール・スポーツ用品、工業用品の製造販売
 設 立：1917年5月
 所 在 地：広島県広島市安佐北区安佐町久地1番地
 従業員数：150名(2023年3月現在)
 ホームページ：<https://mikasasports.co.jp/>

